

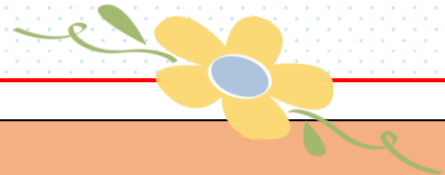
第2回学校支援実践研修会

IN 大玉村農村環境改善センター

目 的： 学校支援事業や放課後支援事業の先進的な取組の実施状況を見学し、成果や現状について協議するなど実践を学ぶための研修会を行い、事業への理解を深め、学校支援事業や放課後支援事業関係者の資質の向上を図る。

日 時： 平成26年10月10日（金）

場 所： 大玉村農村環境改善センター



講話 「気になるお子さんへの理解と支援」

福島県養護教育センター主任指導主事 柳沼 哲 氏

講話「気になるお子さんへの理解と支援」では、福島県養護教育センター主任指導主事 柳沼 哲先生から、発達障がい等の疑いのある子どもたちへの理解と具体的な対応の仕方について、実践事例を交えながらお話しをいただきました。多くの放課後子ども教室や放課後児童クラブでは、元気な子どもたちへの対応で悩んでいる現状があります。今回の講話は、そんな悩みに役立つ内容でした。



- 気になる子に対して、何か困っていないかなという視点が大切である。
- 学校でも児童クラブでも発達障がいに関する相談が増えている現状がある。
- 子どもたちの世界が徐々に広がると、対人関係のトラブルが多くなってくる。
- 3～5歳の幼児には、相手の気持ちになることが難しい場合がある。
- 子どもたちの見方について、「どうしてこの子は話すことができないのだろう？」から「どうして私たちは話すことができるのだろう」と見方を変えると対応が違ってくる。
- 落ち着きのない子に落ち着きなさいと言っても難しい。集中できる物や集中できることがあるとよいのではないかとこの視点があると変わってくる。
- 指示通りに行動する子どもを育てるのではなく、自分で思考し判断する子どもを育てたい。
- 学習障がいの傾向がある子どもへの対応…得意なことをもっと得意にすることが大事である。褒められたことは記憶に残る。
- ADHDの傾向がある子どもへの対応…部分的に本人が努力していることを認めていく。医療機関との連携は場合によっては必要である。
- 自閉症の傾向がある子どもへの対応…見通しを持たせる。(安心する、全ての子どもに言えること)
- 自己肯定感を高める支援が大切である。

実践参観 「おやつ作り」 玉井子ども教室

玉井子ども教室の活動の様子を参観させていただきました。玉井子ども教室は、毎週金曜日に、大玉村農村環境改善センターで実施しています。4年生から6年生を対象に、26名の登録があります。放課後の子どもたちの安全・安心な居場所作りとともに、子どもたちの豊かな体験活動を重視し、活動プログラムを位置づけています。

学校から教室に来た子どもたちは、出席確認を済ませ、すぐに宿題に取り組みました。スタッフも積極的に声かけをして、子どもたちの学習を支援していました。その後、始まりのあいさつがあり、活動の準備を行いました。

今回は、子どもたちが栽培し収穫した枝豆を用いて「おやつ作り」を実施しました。縦割り班ごとに協力して、“枝豆おにぎり”“枝豆サラダ”を作りました。活動に連続性があり、子どもたちの活動への意欲も高く、とてもすばらしい活動でした。



〔宿題に取り組む子どもたち〕



〔おやつ作りの様子〕

御意見 要望 感想（参加者アンケートから）

- ・ 子ども教室の活動はとても参考になった。活動の流れやスタッフの役割など勉強になった。
- ・ 子どもたちの対応について、自分の中で思っていたことにプラスされることが多かった。
- ・ 大変参考になった。気になる子が増えているので、これからもこのような研修を是非実施してほしい。
- ・ 今まで自分がやってきたことが間違っていなかったんだと自信が持てた。ヒントになることがたくさんあった。
- ・ 大変参考になった。子どもたちに対しての接し方が再確認できた。
- ・ 褒めて自信を付けてあげるのがよいということが参考になった。
- ・ もう少し細かい話も聞きたかった。

